

今週の言葉



## 「労働の日々の歌」より

細胞生物学者の永田和宏先生は、京都産業大学総合生命科学部教授／京都大学名誉教授でもあります。歌人として活動もされている方です。その永田先生が今年出版された、『人生の節目で読んでほしい短歌』（NHK出版新書）の中から2つの歌と、その歌に対する永井先生の評価を紹介します。

「面接の終わりシビルは夕あかり一日(ひとひ)で決まる一生(ひとよ)はなけれど」吉川宏志

1つ目のこの歌を永井先生は、「いい面構えをした歌」と評価されています。それは、面接結果については、この歌から判らないが、「一日で決まる一生」なんかあるものか、自分の一生がこれしきのことで決まってしまってたまるか、という吉川宏志の気概が感じられるからです。そして、職場である大学の学生がみんなこんな風に思ってくれると嬉しく、頬らしいとも書いておられます。



「通勤の心からがろ傷つかぬ合成皮革の鞄に詰めて」松村由利子

2つ目は、毎日新聞に勤めていた松村由利子の歌です。永井先生は、彼女の「心」は毎日、非常に厳しい傷付き方をしているが、それを直接的に詠んでいない彼女の歌作の巧みさを称えておられます。そして、厳しい職場環境にもかかわらず、背筋を張って頑張っている彼女の様子が見える歌だと永井先生は書かれています。

永井先生のご本から労働に関する2つ短歌を紹介しましたが、私は、吉川宏志の歌と永田先生の書いておられる文章を読んで、私にはこの歌に示されているような気概があったのだろうか、これまでの生き方を振り返り、必ずしもそうではなかったと反省しました。

面接で落とされることが嫌だから、あるいは、こわくて挑戦をしてこなかったような気がしたからです。これからさまざまな職場へ出ていくみなさんには、是非、吉川宏志の歌に示されたような気概を持って下さい。

また、以前よりも小さくなったかもしれません、男女問わず職場で自分を主張するとさまざまな軌跡があります。松村由利子の歌のように、合成皮革の鞄を用意することも大事ですが、それだけでなく、堂々と自己の意見が主張できるような職場をつくっていってほしいと学生皆さんに期待しています。

キャリアサポート委員会 副部長 北山幸子



## 就活「秋の陣」



現在、キャリアサポート室に届いている各地の就職フェアの代表的な催事を紹介しています。

今年度は、まだまだ採用活動が続きます。自分のスケジュールに合わせて、積極的に動いてください。

月 日	就職フェア	開催場所	受付開始
10/ 9 (金)	あさがく就職博	大阪	天満橋OMMビル
10/10 (土)	あさがく就職博	大阪	天満橋OMMビル
10/14 (水)	適職発見フェアin京都	京都	京都テルサ
10/14 (水)	若者応援就職フェア	大阪	ハービスホール
10/22 (木)	あさがく就職博	京都	メルパルク京都
10/23 (金)	あさがく就職博	京都	メルパルク京都
11/17 (火)	就職先発見!	京都	リーガロイヤルホテル京都

※詳細情報は、掲示板に張り出しています。

また、上記以外にも各地の就職フェアや留学生向け情報もありますから、Uターンなど故郷へ帰って就職活動を考えている人は、キャリアサポート室に相談してください。

キャリアサポート室